

第10回ごみと水を考える集いからのアピール

本日、名古屋市港区の藤前会館に山、川、里、海で活動する市民団体・教育機関・企業・行政等30団体、90人が参加して、第10回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、名古屋市環境局ごみ減量室の山田智隆氏の「藤前干潟のプラスチックごみ、マイクロプラスチックの現状について」の講演で藤前干潟におけるプラスチックごみの現状を知りました。

また、四日市大学環境情報学部の千葉賢教授による「伊勢湾のマイクロプラスチック調査の最近の成果」の報告で、藤前干潟や藤前干潟に繋がる伊勢湾のマイクロプラスチックの現状や脅威について学び、自然環境の保全と健康を守る上からプラスチックおよびマイクロプラスチックごみ問題への取組みが必要なことを認識しました。

さらに、本日の発表と交流では、高校生・大学生の若い人々が藤前干潟やそこにつながる流域におけるごみや水に関わる活動・取組みを発表し、未来への思いを語ってくれました。そして、このような若い人々の活動は私たちの大きな力になることを感じました。

本日の参加者は「第10回ごみと水を考える集い」の参加をとおして、改めて自らのフィールドでの取組みの大切さと、伊勢・三河湾流域圏一体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識しました。今後も「ごみが生まれない社会創り」の実現を目指しましょう。

私たちは、以下の7項目を呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれない社会を創りましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境を創りましょう。

2023年2月25日

第10回 藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

<アピールを採択した第10回ごみと水を考える会に参加した教育機関・企業・市民団体等>

四日市大学環境情報学部、名城大学附属高等学校、名経大市邨高等学校、愛知県立惟信高等学校、中部大学NPO・ボランティアセンター、豊田合成株式会社、明治安田生命、株式会社愛工機器製作所、名古屋テレビ放送株式会社、鯨城・堀川と生活を考える会、一般財団法人みなと総合研究財団、松並木つくり隊、NPO法人四日市ウミガメ保存会、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、JF鳥羽磯部漁業協同組合、NPO法人伊勢湾フォーラム、新川をよみがえらせる会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、萌木舎、土岐川・庄内川流域ネットワーク、土岐川・庄内川源流の森委員会、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）、NPO法人藤前干潟を守る会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

<第10回ごみと水を考える会参加の行政・公的機関>

愛知県尾張建設事務所、三重県環境生活部大気・水環境課、名古屋市環境局減量推進室、名古屋市環境局環境企画課、環境省中部地方環境事務所資源循環課、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所、名古屋港管理組合港営部港営課、名古屋港管理組合企画調整室